令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
71	川崎市立 南野川小学校	西村　勇一郎

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
○たくましい子（心身共に健康で最後まで頑張りぬく子） ○のびる子（主体的に学び、友達と共に成長する子） ○力をあわせる子（友達の気持ちを考え、心と力を合わせて活動する子） ○あかるい子（丁寧なあいさつができ、心豊かにかかわる子）	①学ぶ意欲を高め、協働的学習による質の高い授業づくり ②人権意識を高め、多様性を尊重した学校風土づくり（多様性を大切にする南野川小） ③児童の生命・安全、心と体の健康を最優先する体制づくり ④家庭、地域との協力関係を深める中での信頼関係づくり

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	教科指導	・GIGAスクール構想スッテプ3への移行に伴う、さらなる効果的な活用を図る　学年に合わせた活用の仕方を探る ・校内研究、研修を生かしての言語活動及び読書活動の充実を図る	・GIGA端末の利活用は進んだが、適切な利活用ができているかどうかの検証が必要 ・国語科の授業のみならず、読書活動の活性化につながった	・GIGA端末の使用目的を明確にし、端末に頼り切るのではなく、軽重を付け、目的意識をもって有効活用できるように指導していく ・さらに校内研究、研修を活性化していく
2	特別支援教育	・現メンバーがサポーター等と連携し、チームで個別最適な学びが実現できるように学習活動の充実を図る	・支援学校による巡回訪問でのアドバイスを生かしたり、チームで工夫して対応したりしてきたが、手が回らないことがあった	・安定した対応が可能となるための人材確保と、さらなるサポート体制の強化が図れるように努力していく
3	児童理解	・担任、支援教育コーディネーター、ケース会議、校内支援委員会を機能させ、連携が深まるようにする ・SOSの出し方受け止め方教育やLGBTQ教育の充実を図る	・職員会議での情報交換等、有効であった ・計画に従って、授業を実施することができた ・低学年児童への指導は難しいと感じた ・登校渋り児童の増加	・必要に応じて速やかにケース会議等を開くように確認していく ・LGBTQについては、地道に研修や授業を行い、継続指導を行っていく　着任の教員への確実な伝達 ・不登校対策の強化
4	児童指導	・支援教育コーディネーターを中心として、学年、養護教諭、管理職が連携して、児童の問題行動や諸問題に対応していく ・日頃の児童の行動観察をしっかりと行うとともに、アンケート調査等を活用する	・「ほうれんそう」の徹底や情報交換の充実など、支援教育コーディネーターに気軽に相談できる雰囲気づくりができている ・授業中に限らず、休み時間や給食時間等も含めて、児童のちょっとした変化を見逃さないようにする	・通級担当教員からのアドバイスを生かす等、様々な情報を活用していけるようにする ・支援教育Coとの連携をさらに深める
5	保護者対応	・児童の家庭環境や成育歴、保護者の教育方針などの把握に努め、家庭と連携して児童指導や問題行動に対応していく ・早期対応、早期解決を徹底する ・「ほうれんそう」を徹底する ・保護者対応については、段階的に対応する→すぐに校長につなげない	・支援教育コーディネーターや教頭、教務主任を窓口とした教育相談の体制、家庭と連携した児童指導体制が確立してきている ・早期の対応により、理解を得られたことが多かったと感じている	・学校ホームページ、学校説明会、懇談会等の機会や学校便り等を活用し、ミマモルメを効果的に使い、周知を図っていけるようにする ・今後も早期の対応、丁寧な対応を心がけ、さらに信頼を得られるようにしていく ・相談を受けた場合は、常に傾聴の姿勢で
6	関係諸機関との連携	・保護者からの要望も含め、指導や相談が必要なケースの場合、外部機関と支援教育コーディネーター、ケース会議、校内支援委員会の役割を明確にし、ケースによっては、多角的にアドバイスを受けられるように諸機関につなげる	・区の教育担当との連携に加え、児童相談所、主任児童委員、民生委員、町会長との連携体制が構築されている	・支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制をより強化し、関係機関や地域との連携を維持していけるようにする ・学校運営協議会の更なる充実
7	地域との連携・特色ある教育	・夢教育21の活用と外部講師や教育ボランティアによる教育活動の実施、地域における行事等への参加と交流活動の充実を図る　学校運営協議会の活用	・総合的な学習で特色ある活動を行っているが、探究的な学びが不十分 ・学校運営協議会の設置により、さらに連携が深まった	・研修等の充実により探究活動についての理解を深め、授業改善及び指導計画の見直しを図っていく ・探究の捉えを明確にしていく
8	業務改善・教職員の働き方	・勤務時間管理の徹底を図る ・ストレスチェックや勤務実態調査の結果の活用 ・教科担任制や専科制の推進	・時差勤務の活用に個人差があり、まだ定着しきれていない ・専科制がまだ不十分で、担任の空き時間の不足	・業務内容の見直しと改善策を推進する（空き時間の活用） ・さらに時差勤務をとりやすい雰囲気を作り、活用の推進を図る ・定時退勤日の定着を図る ・ストレスチェックの傾向をつかみ、対策を検討する

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
本校の児童の学力は、けっして高くはないが、学習意欲は高く、授業が分かりやすいと答えている児童が多い。しかし、読書習慣の定着が課題で、読み聞かせ等も定期的に行っているが、読書習慣が身についている子は少ない。生活面に関しては、友達との関係は概ね良好と感じている保護者が多い。また、挨拶に関しては、比較的多くの児童が自ら挨拶ができていると答えており、地域の方々からの評価も高い。本校の特徴の一つであるスクールバンドについては、位置付けが不明確であり、今後の活動継続が危ぶまれている。運営体制の構築が必要と考えている。今後の運営について心配している保護者も多いので、先を見て、末永く活動していけるように方策を練っていきたい。	「学ぶ意欲を高め、協働的学習による質の高い授業づくり」に関しては、国語科の授業を中心に授業力向上を目指しているが、教員にとってよい研修の場となった。読書活動の推進も進んでおり、「多様性を大切にする南野川小」については、今年度も教職員がLGBTQの研修を受講し、学ぶ機会を設けたことで、改めてジェンダーについて考えるよい機会となり、児童への指導にも役立てることができた。「児童の生命・安全、心と体の健康を最優先する体制づくり」は、交通事故が多かった実情から、さらに交通安全教育の必要性を感じた。「家庭、地域との協力関係を深める中での信頼関係づくり」については、PTAや地域とのつながりが強固なので、現在の関係を継続しつつ、維持していけるように努めていく。関係性は良好である。